産官学と地域が一丸となって創る未来の大阪

2022.11.12(土)・13(日) ミナミエリア各所で開催

機運醸成ための情報発信ブースや万博関連グッズの販売ブースのほか、鳥取県、徳島県、高知県、和歌山県、愛媛県、大分県のＰＲブース、飲食ブースが多数出店。各自治体のゆるキャラも花を添えてくれました。湊町リバープレイスでも大阪を代表する飲食のブースが多数出店し、ダンスや子どもサッカー教室などで会場を盛り上げていただきました。道頓堀では３年ぶりに川面舞台が復活。お笑いタレントやアイドルのライブ、文楽や上方舞の上演も行われました。

第12回よさこい大阪大会

日本MGMリゾーツ
川上次郎バイスプレジデント兼社長補佐

米国の国際的なIR運営企業MGMの日本法人、日本MGMリゾーツは平成29年からよさこい大阪大会を協賛。川上次郎バイスプレジデント兼社長補佐に、第12回よさこい大阪大会の印象や今後検討している同社の大阪・関西への地域貢献策について聞きました。

―今年のよさこい大阪大会への印象についてお話しください。

今大会は、大阪有数のターミナルの前に広がるなんば駅前広場が会場になったことで例年以上に魅力的な大会になったのではないでしょうか。なんば駅前広場はイベント空間として大きなポテンシャルを持っていると思います。ありがたいことにコロナ禍に伴う行動制限が徐々に緩和され、賑わいが戻ってきた状態で開催することができました。秋晴れの美しい青空の下で躍動する出場者の皆さんの姿を見て、よさこいは人の心を揺さぶる素晴らしい エンターテインメントであることを改めて実感しました。こうした意義のある大会を、今年も引き続きサポートさせていただくことができ大変うれしく思います。

―IR が地域経済にもたらす波及効果は

IRでは1万５千人の従業員を雇用する予定です。質の高い雇用が増えることは地域経済の成長につながります。また、地元への還元を重要視し、MGMはゲストに提供する商品やサービスを地域から積極的に調達するようにしています。それだけではありません。IRのゲストを関西の各地に送客することで観光産業の更なる成長をサポートしたいと思っています。IR は日本で普及していない施設ですので、理解していただけるよう地域の人たちへの説明をしっかり行っていきたいと考えています。

―そのほかに検討している地域貢献策は

中小企業、スタートアップ企業の支援や大阪・関西の経済界が力を入れているイノベーション、新産業の創出支援にも貢献したいと思っています。世界的なＭＩＣＥイベントの誘致を通じたビジネスマッチング機会の創出のほか、IRにイノベーションの促進施設として「関西イノベーション・ラボ」を設ける予定です。ビジネス支援プログラムの誘致を通じて関西のベンチャーエコシステムの強化にも貢献したいと考えています。

―2年半後にせまった2025年大阪・関西万博への印象は

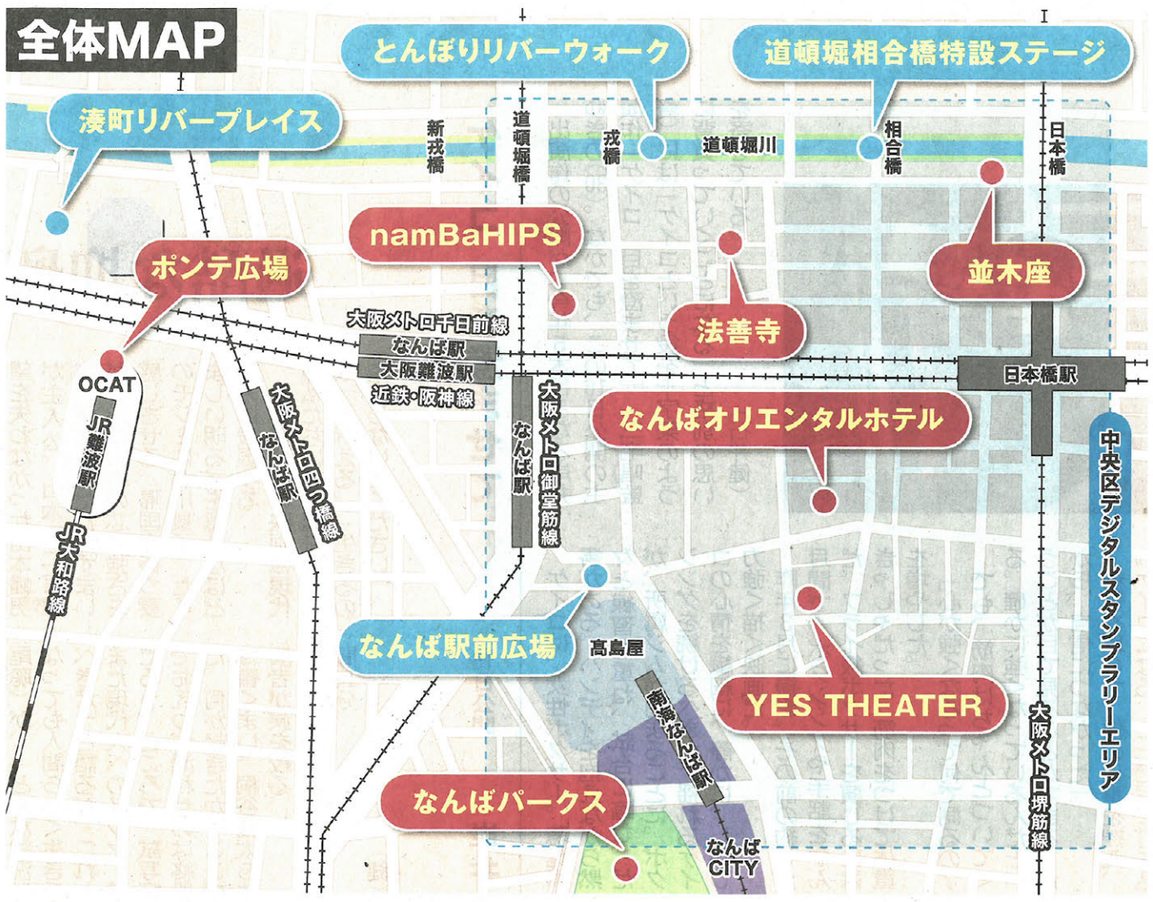
未来社会の実験場として 様々な最先端技術が展示されることに期待しています 。私は在日米国商工会議所の副会頭としても活動しているのですが、その活動を通じて様々な外国人の声を聞いて思うのは、大阪は新しいものを受け入れる素養があり、非常に国際的な都市であるということです。万博のような 世界的なイベントを開催する場所として 大阪ほどふさわしい都市はなかなかありません。大阪は観光都市として既に世界から注目されていますが、万博に向けて更に盛り上がっていくことでしょう 。私自身はアメリカで生まれましたが、実は父も妻も大阪出身です。大阪にルーツを持つ1人の個人として大阪・関西の魅力発信のお役に立ちたいと思っています。

ブース出展をして Airbnb Japan株式会社

世界のユニークで本格的な宿泊場所やアクティビティの紹介を事業として展開するAirbnb（エアビーアンドビー）が、なんば駅前広場でブースを出店し、訪れた人たちの注目を集めました。出展は令和元年に続いて今回で２回目。Airbnb Japan公共政策本部上席渉外担当の杉山亜希子さんは「想定していた以上のたくさんの人に訪れていただいたおかげで、幅広くアピールすることができました」とのお話。

ブースでは、環境にやさしい蜜蝋を使った布づくりなどのワークショップや、ブースを訪れた人に大阪で行ってみたい場所やお薦めの場所を記入してもらう企画を実施。また、大阪市商店会総連盟と共同制作した情報誌「New　Tourism MAGAZINE-大阪・なんばー」を無料配布しました。

情報誌では大阪・ミナミで伝統や文化を守りながら新しい企画に取り組んでいる８人をピックアップ。英語など多言語に翻訳したウェブ版も制作して世界に発信しています。「これまで大阪を訪れたことがない世界の人たちに情報を届けたいと思っています。大阪に足を運ぶきっかけにしてもらえたら」と杉山さん。今後も大阪を題材にした情報誌の制作を継続していくということです。今回の出店について杉山さんは「大阪ミナミのにぎわいを通じて大阪のパワーを実感しました。これからも活性化のお役に立てるよう頑張ります」とのお話でした。



地域の回遊性を高めて売上向上につなげる

大阪市は、地域での滞在時間が長ければ経済効果につながるという昨年の調査データを検証しながら、今回も人流調査に取り組んでいただきました。今後、実行委員会にとって、調査データに裏付けされたイベントの構築やまちづくりの合意形成に活用させていきたいと考えています。

なんば駅前広場 オープニングセレモニー

12日、午前10時半からなんば駅前広場で開かれた開会式には、大阪の活性化に取り組む企業・団体、商店街、自治体の関係者が登壇。冒頭、大阪活性化事業実行委員会の千田忠司代表理事は「国内外の人に大阪ミナミをアピールし、大阪を元気にしたいという思いでこれからも取り組んでいきたい」と挨拶。続いて大阪府の吉村洋文知事、大阪商工会議所の鳥井信吾会頭、大阪観光局 溝畑 宏理事長、2025年日本国際博覧会協会 堺井啓公機運醸成局長、リバー産業株式会社 河啓一社長にご挨拶をいただきました。

千田忠司代表理事

吉村洋文知事

鳥井信吾会頭

溝畑宏理事長

堺井啓公機運醸成局長

イオン株式会社

11年前から、当委員会が初めて取り組んだのが、WAON presents OSAKA キッズダンススマイルフェスティバルでした。コロナ下でも、オンラインで開催。今回11回目の開催を迎えています。ステージでは、キレキレのダンスを披露してくれました。

リバー産業株式会社

後援企業を代表してリバー産業の河啓一社長は「大阪は国際観光都市として大きなポテンシャルを持っています。心のこもったサービスを徹底すれば海外の人に我々の気持ちは必ず伝わります。ハートで勝負して世界の大阪を作っていきましょう」とご挨拶。

河社長

大阪なんばは、国内外の観光客の玄関口

大阪を満喫した後は、西日本各地に出かけるインバウンド観光客も多い。バスの便も充実する当地は自治体の魅力を発信する場所として絶好の拠点。今回の事業でも鳥取県、徳島県、高知県、愛媛県、大分県、和歌山県が出展し特産品販売と情報発信を行いました。

13日はあいにくの雨、それでも各県のPRステージでは、ご当地キャラとともに魅力をアピールし、来県を呼び掛けました。鳥取県は、大山Gビール、かに汁などを販売。高知県は特産品セットなどの豪華賞品が当たる「高知家ぞっこんくじ」を各日限定５０個で販売するなど各県とも工夫を凝らしていました。担当者の１人は「若者や海外からの観光客をはじめ幅広い層の人たちにしっかりと魅力をアピールすることができました。２０２５年の大阪・関西万博に向けて大阪との連携をこれからも重視していきたい」と話されました。

大分県・めじろんくん

高知県・くろしおくん

愛媛県・みきゃんちゃん

鳥取県・トリピーくん

徳島県・すだちくん